

あしたの風

第 89 号

令和元年 9 月 2 日 発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

——— 秋 田 市 の 生 涯 学 習 ———



大森山動物園
～動物と語らう森～

☆☆中央地区☆☆

まつりの季節

佐々木 孝

まつりの季節が近づいてきた。まつりは地域の人々にとって生活のリズムであり、一年の大きな節目でもある。

私は旧本荘市の出身である。

市は小さいながら六郷藩二万石の城下町であるので、まつりにも一応の格式が備えられていた。殿様行列は、まず「えんさーよへー、よいとまーかせー」の掛け声で、槍・長持ちを始めとする旗指物の奴行列から始まる。続いて殿様行列だが、これは当番町の殿様役の稚児さんに先導された稚児籠（当番町の中から四〜五歳の稚児が選ばれる）が続く。この行列に続くのが勇壮な旗背負い（はたしよい）である。長さ十数メートル、直径七〜八センチの青竹に白いさらしをまきつけた旗竿を折らんとし、十数名の若者が電柱や建物の角にぶつけるのだから危険極まりない。そしてこれを折ればその場所（店）で酒をふるまうことになっており、大店や格式のあるところでは行列がなかなか進まない。私の家は旧商店街の端にあって、玄関前に程よい広場があったので、旗背負い行列の休み場所として定着しており、ふるまい酒と金一封が恒例となっていた。

行列の最後は獅子舞である。三名の獅子装束の稚児が横笛の調子に合わせて舞いつつ歩くのだが、行列が休みを入れるとき獅子舞を披露する。獅子舞には祭り当日のものと、翌日の裏祭りの踊りがあるが、当日のものを陽とすると、翌日のそれは

陰であった。そのため、裏祭りの獅子舞は哀調を帯びてなんともたまらなかった。私はこの裏祭りの獅子舞が好きで、よくついてまわった。故郷にはなにかの思いがあるものであるが、今でもまつりのことはよく覚えている。まつりは私にとって地域のアイデンティティーとなつていようである。



挟箱を担いだ奴の様子

☆☆土崎地区☆☆

家庭教育学級に参加して

林 多実

土崎公民館の「家庭教育学級」に参加したのは、現在大学一年の下の娘が幼稚園の頃だったと思います。自分の子育てに自信がなくアドバイスや指針が欲しいと思っていた時に知人に勧められたのがきっかけでした。

子育てに関する様々な講演を聞き、専門家とのワークショップなどの体験を通して、少しずつですが子育ての心構え等を身につけることができたのではないかと思います。その中で「子育てに終わりはない」ということを教えていただきました。

今年の春、下の娘も親元を巣立っていきました。が、離れたら離れたなりの子どもたちと関わりを



出前上下水道教室などの講座も実施

楽しめるという、学級で学んだとおりの状況を楽しむことができるようになりました。
また、この学級の中で、秋田市内のほかの学区に子どもを通わせるお母さんたちとの交流は、視野を広げることによって役立ったのではないかと思います。何よりもその活動を通して「生涯学習」に関わることができたのが大きな財産だと思っています。
思い切つて家庭教育学級に参加したことによって、たくさんの方々巡り会い、一緒に活動できることはなにより楽しみです。毎年のキタスカまつりでは食堂のお手伝いや生涯学習の相談事業のテーブルについてサークル活動をお探しの手伝いをさせていただくのですが、お一人でも多くの方が希望する活動団体につながって「生きがい」を見つけてくれることができるよう、お勧めができればと思います。

☆☆河辺地区☆☆

奨励員の役割

委員長 石塚 小枝子

数年前までは、「生涯学習奨励員って、何やってるの？」と問われることもあったが、最近では、サークルのメンバーなどから、「お疲れさま」との言葉をいただくようにもなり、少しずつ生涯学習奨励員の活動が地域に浸透していることに感謝している。

だが、生涯学習奨励員が、地域における生涯学習を盛んにするため、住民の身近なところで学習活動を奨励、援助することが役割であるとすれば、それが果たされているのかと疑問に思い、まだまだ遣るべき事があるのではないかと感じている。

広く世間に目を向けると、少子高齢化の昨今、超情報化社会と価値観の多様化が進み、通常では想像もできない凶悪犯罪が毎日のように起きている。そのような現実には、心を痛める日々を過ごしながら、いろいろなボランティア活動をしている。悲しい報道を聞くたび、地域社会の一員としての意識や連帯感が希薄化し、無責任な情報発信をする人間も増えているように感じられる。

なぜ、このような社会になってしまったのだろうか、胸が張り裂ける思いになる。

一番近くに居る親と子の間でも、問題が起きていることに気づかず、「SOS」になぜ気づいてあげられなかったのかと、悔しく感じる時もある。

だから、私たち生涯学習奨励員は、奨励員としての役割を自覚し、一人一人にできることは小さくても、身近に出来ることから活動を広げていき、

家族や地域の強いつながりを築いていかなければならないと、強く思う。



研究大会での公演の様子

☆☆雄和地区☆☆

なんでも屋

竹下 哲

私に肩書きはない。多趣味に任せ民謡、舞踏、歌、ハーモニカ、文芸と嗜んできたことを「なんでも屋」として綴ってみたい。高校を終え家業の稲作りをして居た頃、公民館の書記を頼まれ、全村運動会、敬老会、趣味講座の企画運営に当たる。若者の集いの場としての青年会に入り、折から興りつつあったボランティア活動にも身を置く。三十歳になる頃、職替えを決意、河辺町の商家に従業員として仕え、商取引の現場、銀行との絡み、顧客との在り方を修業。その頃町村合併が進み四村が合併、中心地に町役場が出来ると知り、食料品店を開業、家族に店を任せ自分は車で巡回販売をする毎日となりました。

それから間もなく雄和の山の中に秋田空港が出来ると騒ぎとなり、その建設の為に新道路が出来ると店は裏通りとなる。気を奮い立たせて空港道路へ移転を図る。

生来の歌好きが高じて地元の民謡同好会に入り、お祭りや各種会合に出演していたが、踊りも有った方がいいと言ふことになり、男だてらに踊りも身につける一人となりました。

その間商売は順調に伸びていたが、一日五、六時間しか休めない事と、世は大型スーパーの時代となる予感があったので、又々コンビニに移る決意をした。そして七年、よく売れる処には必ず商売敵が現れるのが世の常、子や孫達を育て上げ、家族にも自分にも疲れが見えて来たので、潔く店を



文化祭でのハーモニカ演奏風景

閉じる決意をしました。
仕事から離れても歌、ハーモニカ、短歌俳句を
生き甲斐に静かに暮らす毎日です。
「あしたの風」に相応しからぬ稿ですが、少しで
も生き方の参考にしていただければ幸いです。



俳句の吟行会風景



河辺雄和合同短歌会の面々

【新元号・市政百二十周年と 生涯学習奨励員】

委員長 石塚 小枝子

元号が平成から令和へと変わり、歴史の転換期を迎える二〇一九年は、秋田市にとっても、市政施行一三〇周年の節目となりました。

この機会に、秋田の生涯学習に関して振り返りますと、秋田の生涯学習は、小畑勇二郎元秋田県知事による功績が大きいものとされ、昭和四十五年に設置された生涯教育研究プロジェクトチームが、生涯教育推進のスタートとされており、

そして、現在の生涯学習奨励員の前身は昭和四十九年に設置開始されており、現在、その定義は、地域における生涯学習をさかんにするために、住民の身近なところで学習活動を奨励・援助する新しいタイプの指導者とされており、

生涯学習の推進については、最近では、障害者の学びに関する取組強化等の新しい動きが見られます。私たちも、新しい時代も、引き続き、学びの輪を広げるために活動を頑張っていきたいと思います。



《連載》社会教育・文化施設等

〈教育の場としての動物園〉

秋田市大森山動物園

小松 守

秋田の動物園は、県が全国に先駆け設立した児童会館の附属施設として、一九五〇年に千秋公園につくられている。教育県の片鱗がこんな所にも垣間見える。後に市に移管、全国の公園建設ブームの中、現在の大森山公園に移転したが、ここにも「こどもの国」が明記され、子ども心を育もうとする意識がうかがえる。

動物園の最大の存在意義は教育だと思う。種の保存や調査研究などは持続可能な動物園のための当然の所作や活動であり、多様ないのちと向き合える動物園は柔らかな心を育む場の一つとして役割を果たしたいものだ。いのちの尊さへの意識が薄れがちな現代社会にあつて、本物を目の前にできる動物園は生きていることの尊さを意識しやすい場所もある。ただ、大上段に教育を振りかざしたくもない。動物との出会いの中、知らず識らずに関心を寄せ、愛着を抱き、共に生きていることの大切さを感じてもらうことができれば、動物園の果たす役割は大きいと言える。

動物園体験は一度ではなく、学びの質が変わる年齢層ごとに継続し利用してもらいたいものだ。幼児期での体験、青少年期に感じる生命の不思議さ、大人が我が子にさせたい体験、熟年者の動物園利用、感じ方は様々であろう。幅広い年齢層に支持される魅力づくりのために、また利用者にとつても何かを伝え続けるために、動物園の努力に終

わりはない。

大森山動物園

住所 秋田市浜田字湯端一五四番地

電話 〇一八・八二八・五五〇八

開園時間 二〇一九年三月十六日(土)〜十二月

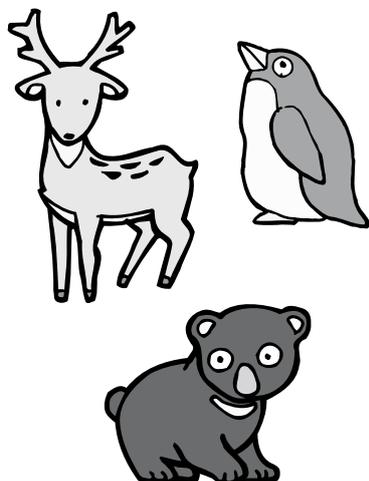
一日(日)まで

午前九時〜午後四時三十分(入園は午

後四時まで)

入園料 大人七二〇円、団体五二〇円(大人

二十名以上)、高校生以下等無料



令和元年度
秋田県生涯学習奨励員協議会
功労者表彰

令和元年五月十四日、秋田県生涯学習センターにおいて、左記の方々が表彰されました。

- 佐々木 孝 奨励員（中央地区）
- 宮田 悦子 奨励員（東部地区）
- 塚田 治誠 奨励員（西部地区）
- 杉澤 裕子 奨励員（南部地区）
- 安藤 実子 奨励員（河辺地区）
- 大友 昌子 奨励員（雄和地区）

おめでとうございます。
今後ますますの
ご活躍を
ご祈念申し上げます。



令和元年度
市民サービスセンター、
コミセン等まつり

市民サービスセンターや地区コミュニティセンターを拠点として学習活動に励んでいる方々の発表の機会や地域住民の語らい、親睦を深める場と

なっています。

芸能発表や作品展示、軽食コーナー等が用意されています。生涯学習奨励員の生涯学習相談も行っていきますので、是非、会場に行ってみてください。

【市民サービスセンター等】

中央市民サービスセンター	十一月二日(土)、三日(日)
東部市民サービスセンター	十月十九日(土)、二十日(日)
西部市民サービスセンター	十月十二日(土)、十三日(日)
南部市民サービスセンター	十月十九日(土)、二十日(日)
北部市民サービスセンター	九月二十八日(土)、二十九日(日)
河辺市民サービスセンター	十月十九日(土)、二十日(日)
雄和市民サービスセンター	十月十九日(土)、二十日(日)
下新城交流センター	十月十三日(日)

【地区コミュニティセンター】

茨 島	十月十九日(土)
保 戸 野	十月二十六日(土)、十月二十七日(日)
榎 山	十一月九日(土)、十一月十日(日)
旭 北	十月十九日(土)、二十日(日)
八 橋	十月十二日(土)、十月十三日(日)
川 尻	十月六日(日)
明 徳	十月六日(日)
旭 川	十月五日(土)、六日(日)
太 東	十月十二日(土)
下 北 手	十月十三日(日)
上 桜	九月一日(日)
大 北 手	十月十三日(日)
外 住	十月六日(日)
飯 旭 川	十月十九日(土)
寺 島	十月十九日(土)、二十日(日)
将 内	十月二十日(日)
港 野	十月十三日(日)
下 北	十月二十七日(日)
飯 新 城	十一月十日(日)
河 島	十月二十七日(日)
河 南	十月二十七日(日)
河 内	十月六日(日)

※開催日は、変更になる場合があります。

編集後記にかえて

令和の元号となり、四ヶ月が過ぎました。新メンバーの皆さんと力を合わせ、それぞれの地域の独自の色を出しながら、安心、安全な住みやすい地域を目指し、全員一丸となって頑張りたいと思います。
(石塚)

編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

- 佐々木 孝(中央) 佐藤 美枝子(土崎)
- 伊藤 キヨ(西部) 鈴木 啓子(東部)
- 藤原 博子(南部) 中泉 雪子(北部)
- 石塚 小枝子(河辺) 竹下 潮子(雄和)

『あしたの風』第89号

発行

令和元年9月2日

編集発行

秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八八八八八八五八一〇

この広報誌は

発行部数 一一〇〇部

配布方法 無料配布